

2009年度

さのひろみつ 理事長：佐野博美



01

理事長としても最も重視された点をお教え下さい。

組織の規律を守るためにルールや定款を厳守することを重視しました。また、上程書を作ることが委員長の仕事ではなく委員会活動を発展させ運動にしていけることが重要だと色々な言い方で伝えてきました。

02

スローガン、基本方針を掲げた想いやそのプロセスをお聞かせください。

夢溢れる静岡を作るために、まず自らを律し皆に運動が伝播するように思いを込めました。

03

JCで学んだことの中で最も大切だと思うことはなんですか？

JCで学んだ大切だと思う事柄は理事長を終えてから色々と感じますが、当時知り合った人と会う機会が今でもとても多く、人と人のつながりという財産をもらいました。

04

1年間、理事長をやり一番嬉しかったことを教えてください。

理事長のときに伝えたことが、今でもメンバーに伝わっている事が嬉しいです。また、現役のメンバーが当時に伝えたことを、「立場が変わった今になって理解できる。」と言ってもらえることは本当にうれしく思います。

05

今のJCと当時のJCの違いがあったら教えてください。

時代背景が違うので雰囲気が違うのは当然です。伝統を受け継ぎながらも、今は今のやり方でやることも大切。入会歴の浅いメンバーや女性メンバーが増えているというのは、時代に合ったスピード感のあるJCになっているのではないかと思います。合併を経験したメンバーと経験していないメンバーを比べればLOMに対する意識が違うことは自然なことです。

06

過去の理事長所信等を読ませて頂き、JCは単年度制ながらも代々の理事長で伝わっているものがあるように思えました。そういったものはありましたか。

個々の場で話しているインタビューの言葉も、理事長当時に話している言葉も本質は変わっていません。ただ、各年度理事長の思いはそれぞれ違うし、初代の背負っているものと今の理事長が背負っているものは違うが、背負っている重さは同じだと思います。歴代理事長会では初年度と鎌田理事長で9年の差があるので、年齢が違えばスピード感や発想は違いますが、各理事長は時代背景を踏まえ選出されているはずなのでその言葉の重さは変わらないと思います。

07

これからのJCが果たすべき役割は何だとお考えですか？現役メンバーへのエールも同時にお願い致します。

JC「しか」なかった時代からJC「も」ある時代へ変わった。JCでしか絶対できないことがあることを確信しています。元気よくバカをやっている姿をもっと見せてほしい。内々で盛り上がるのではなく、もっと大風呂敷を広げ、とにかく元気よくやってもらいたい。JC活動ができるのも40歳までだけだから。また、公益社団法人ではなく一般社団法人を選んだ意味をしっかりつけてください。市民へバトタッチする事務局的な役割は一般社団法人だからこそできることですから。

08

人口流出全国ワースト2の我がまち静岡の現状をどうお考えですか？

最悪な状況だと感じています。プレゼンやアピールがうまくいっておらず、静岡市民として魅力は多く知っているが、県外の人まで伝わってないと思います。静岡には悪いところがないのが悪いのではないのでしょうか。静岡市長や若い世代にはこの問題をもっと真剣に考えてほしいですし、まちづくりの団体であるJCが取り組むべき事なのかもしれません。

09

静岡JCの歴史沿革の中に記すとした時、2009年度のキーワードとして『自らを律する』『夢と情熱』等があると思いますが、佐野シニアにとってその年をひとりで表すならどのような言葉を選びますか。

「愛」。愛にもいろいろあるが、厳しさを持った愛。

10

「自らを律する」という言葉がとても新鮮で今でも心に残っています。一年を通じて、静岡青年会議所メンバーの変化をどのように感じましたか？

クリスマス例会の時に皆の顔を見たときに、かわいくてしょうがなかった。これは理事長を経験して感じるようになったのかもしれませんが、親が子に持つ感情の様に悪いメンバーも良いメンバーもみんなかわいく感じるようになりました。当時クオリティの低い上程書しか書けなかった後輩が、現在の静岡を牽引している姿を見るとうれしく感じます。

11

スマイルフェスタや国際交流事業など、JC内部だけでなく外部への発信を積極的に行っていますが、その経緯と、成果を教えてください。

JCの活動として、本当の意味での「公益」を意識しており、市民を巻き込んだ外部発信しないと意味がないと感じていました。2つの事業に関わったメンバー皆が達成感を得ていました。これからも成功や失敗にはあまりこだわらず、外に発信する事業を毎年行って欲しいと思います。

12

2009年は地域との連携・市民との交流を感じる年だと感じます。ペーパーレスの会議やホームページの充実、またメルマガの実施など、新たな試みも多かった年でした。佐野シニアが印象的だった活動は何ですか？

長谷川委員長が行っていた、「まいにち一日一言のコナー」などは、自分には出来ないことなのですごかったです。一般社団法人を選んだのも2009年。JCはまちづくりの中で実行委員会など事務局的な役割を果たすべく、これを達成するためには街づくりをするJCの役割を考えて公益社団よりも一般社団を選択した経緯があります。

取材全体としてのまとめ・感想

駿河青年会議所のご出身で合併4年目をまとめるにあたり、客観的な視点から青年会議所活動を評価されたところが、新設統合の一つのメリットだったのではないかと思います。3年目の久住歴代理事長が内向きな結束を重視したのに対して、広報活動やスマイルフェスタなど、青年会議所活動を外に向けて発信していく重要な1年になりました。

取材前と後での特に気付いた点

理事長職は全体を見渡す必要があり、事業の一つ一つまで拘って関わるのは難しいことだと感じていました。佐野歴代理事長のお話を伺って、事業一つ一つだけでなく、メンバー一人ひとりの状況にまで心配りをされていたというお話が印象的でした。また、各年度ごとに事業の趣向や内向き外向きの違いはあれど、根底に流れるJC魂は何ら変わることなく引き継がれているということを知り、次世代につなげていかなければならない我々の責任を感じました。